

# インドネシア人介護福祉士候補者を対象とする 初級からの専門日本語教育研修プログラム

2009年度日本語教育学会春季大会  
2009年5月24日(於:明海大学)

登里民子・栗原幸則・今井寿枝・石井容子

(独立行政法人国際交流基金関西国際センター)

共同研究者: 境田徹(独立行政法人国際交流基金関西国際センター)

# I はじめに

2007年7月 日本インドネシア経済連携協定(EPA)署名

2年で最大看護師候補者400名、介護福祉士候補者600名受け入れ

2008年8月 第1期生が来日

看護師候補者115名

介護福祉士候補者93名

日本語研修(6ヶ月)・介護/看護導入研修(JICWELS)

<AOTS> 看護師+介護福祉士  
候補者

<JF> 介護福祉士候補者56名

病院での業務・研修(2年)

介護施設での業務・研修(3年)

看護師国家試験

介護福祉士国家試験

合格

不合格

引き続き勤務

帰国

## Ⅱ 先行事例

# 看護師(候補者)に対する日本語教育

---

事例	機関	対象者
関(1982)	東海大学	東南アジア看護師
石鍋(2007)	国際医療福祉大学	コメディカルを目指す留学生

### 研究

会話分析 永井(2007)

漢字教育 石鍋(2007)、奥田(2007)

## Ⅱ 先行事例

### 介護福祉士(候補者)に対する日本語教育

---

#### 事例

フィリピン	ミンダナオ国際大学
インドネシア	チレボン看護学校

#### 研究

談話・語彙

石川(2008)

# Ⅲ 研修の目標

＜外務省規定＞

## (1)カリキュラム全体

地域・施設において、生活・就労、および自己学習ができる基礎的な日本語と社会文化能力を習得する。

## (2)日本語研修

基本的な日本語を使った就労を可能にするレベルの日本語を身につける。

## (3)日本社会文化理解

生活者として、および介護福祉士候補者として必要な、日本社会への理解、日本の生活習慣と職場適応能力を身につける。

# IV KC研修参加者のプロフィール

インドネシアの看護師資格  
を持つインドネシア人  
56名  
(男性29名／女性27名)

年齢構成	
20-24歳	43名
25-29歳	12名
30歳以上	1名

看護師としての職務歴  
半年以上:7名

日本語学習歴	
無	20名
～3ヶ月	28名
～6ヶ月	8名

# V コースデザインの基本方針

---

## (1)KCの蓄積とノウハウを活かす

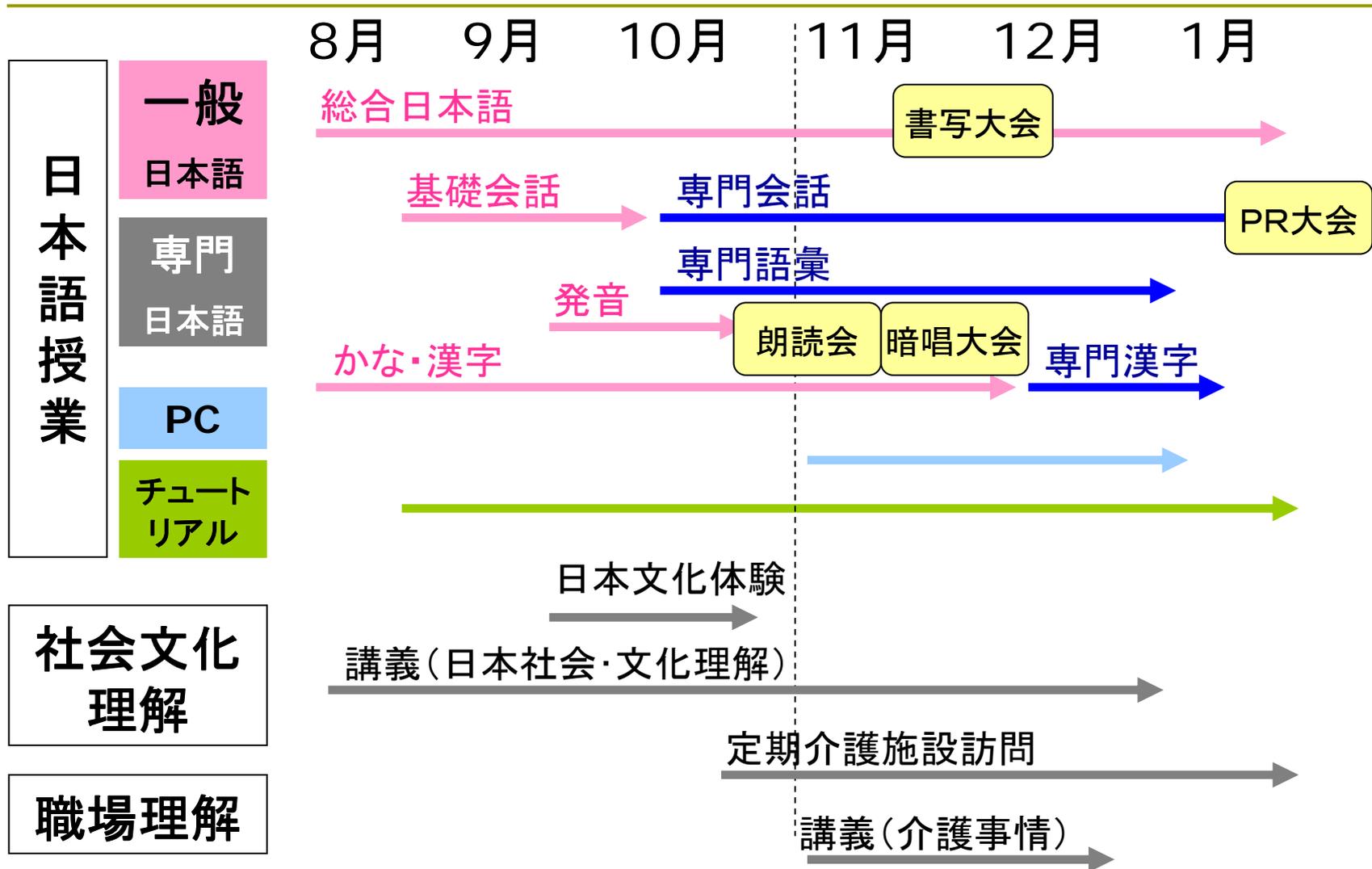
- ・初級からの専門日本語教育
- ・行動志向のコースデザイン(ウチとソト(職場)の結びつき)
- ・看護・介護のための日本語教育データベース『日本語でケアナビ』

## (2)学習者の特性に沿うコースデザイン

- ・(一) 英語運用能力が低い。
- ・(一) 自律学習の経験に乏しい。
- ・(十一) 同一国からの多数集団の研修
- ・(十) 人前でのパフォーマンスが得意

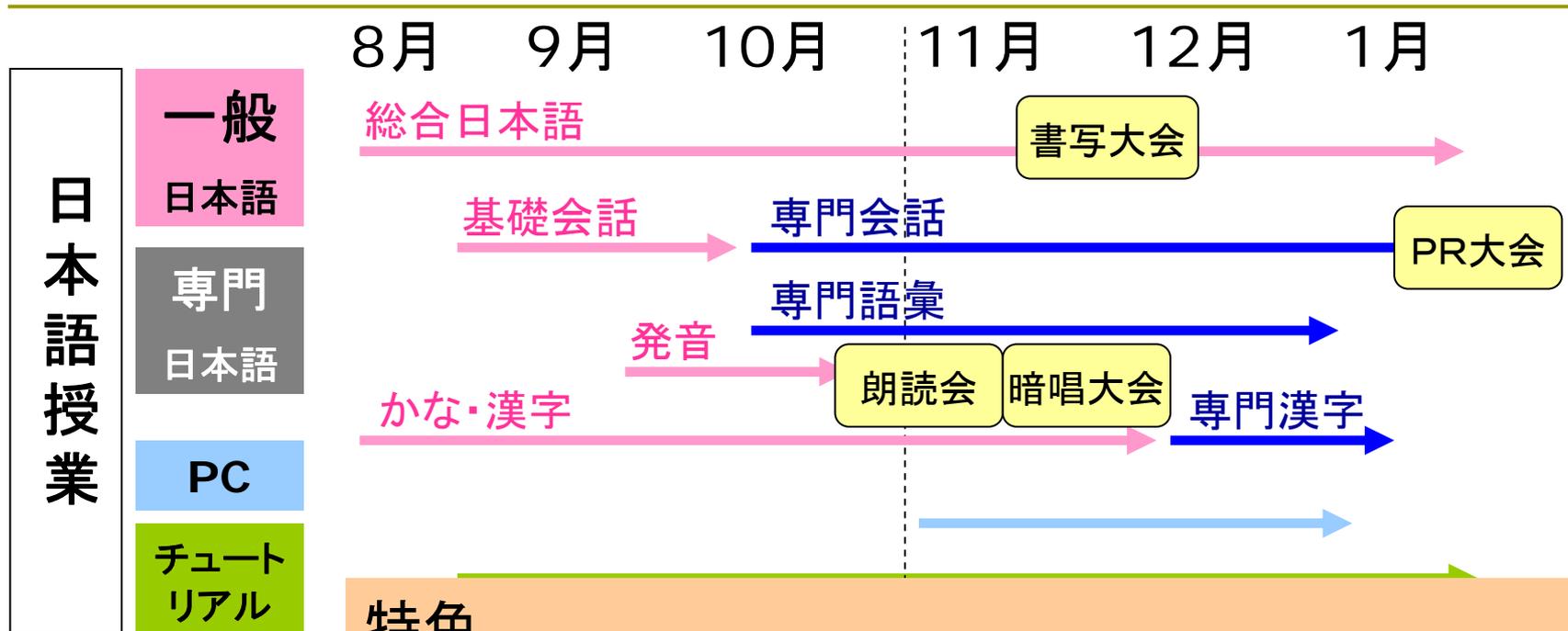
# VI KC 研修概要

2008年8月7日～2009年1月28日



# VI KC 研修概要

2008年8月7日～2009年1月28日



社会文化  
理解

職場理解

## 特色

1. 初級前半からの専門日本語科目の導入
2. 口頭能力重視
3. 自律学習支援(PC、チュートリアル)

# VII 学習者の評価

## 中間期(10月)

### ■個別学習相談

#### ・配付とフィードバック

①各科目テスト

②口頭試験成績

#### ・今後の学習方法のカウンセリング

### ■受け入れ施設に成績を送付

## 修了時(1月)

### ■個別学習相談

#### ・配付とフィードバック

①研修の記録 ②最終成績表

(科目別成績、口頭能力評価、  
賞などの記録)

#### ・今後の学習方法のカウンセリング

### ■受け入れ施設に送付 上記①②

+講師による所見

+施設の学習計画立案のための助言

# VIII 学習者からのプログラム評価

---

- ・研修全体について : 全員が、「とても満足」「満足」

- ・日本語授業について: 満足度が最も高い

- ・専門日本語科目について

専門語彙: (+) もっと勉強したい、

専門会話: (+) 実用的、仕事に役立つ、時間を増やしてほしい

(-) 総合日本語で未習の表現や語彙が難しい

覚えられない

# 「初級からの専門日本語」について

---

## 1. 初級段階からの専門日本語科目導入

- ・直後から現場に対応できる日本語能力養成のために必要
- ・学習者のモチベーションのアップ

## 2. 専門日本語科目と一般日本語科目のバランスが重要

- ・一般日本語科目に専門の場面や語彙を取り込む
- ・一般日本語で必要性の低いものを削減

## 3. 専門日本語科目間でのリンクが必要、開講時期の再考

- ・専門語彙：早めから 専門漢字・専門会話：初級後半から

## 4. 専門科目としての「日本事情」を開講すべき

# おわりに（今後の課題など）

---

## (1) EPA日本語研修各論の検討と発表

- \* 専門日本語科目の教材・授業内容
  - ・評価方法
- \* 口頭試験の実践と評価
- \* 自律学習を目指す学習ストラテジー
- \* 教室のウチとソト（介護施設）を繋ぐ実践例

## (2) 展望

- \* 研修参加者および受け入れ施設に対する追跡調査